

宍道湖流入・流出水調査月報

(平成13年6月期)

水質概要

6月の水温は、表1に示すとおり平年値(上層23.5、中層25.9、下層22.6)と比較してほぼ平年並みの変動であった。図1に示すように、6月の水温変動は22~26で変動しており、下旬に向かうにつれ徐々に水温上昇が見られた。また、水深による顕著な差異は見られなかった。6月7日に見られた高塩分流入時に中層・下層の水温が2程低下していた。

6月の塩分は、表1に示すとおり平年値(上層10.4psu、中層13.9psu、下層17.0psu)に比べて、上層、中層、下層ともに低い値での変動であった。また、6月においては15psu以上の高塩分水の流入は7日観測された。6月は、気圧低下と高塩分水の流入に顕著な関係は見られなかった(図2参照)。

6月の溶存酸素濃度は、表1に示すとおり上層・中層・下層ともに4.5~5.3mg/lと高い溶存酸素濃度の変動が見られた(平均値:上層5.1、中層:4.7、下層:4.8mg/l)。顕著な貧酸素水の流入は、6月7日に見られた。図1に示すように、15psu以上の高塩分水の流入時に溶存酸素濃度の低下が見られた。

表1 6月期の水質概要

		水温	塩分	溶存酸素濃度
		()	(PSU)	(mg/l)
上旬	上層	23.1	7.7	5.3
	中層	22.8	10.1	4.6
	下層	22.7	10.5	4.9
中旬	上層	22.9	6.9	4.8
	中層	22.8	8.1	4.5
	下層	22.7	8.2	4.9
下旬	上層	23.7	3.5	5.3
	中層	23.7	4	5
	下層	23.6	3.7	4.7
月間平均 (6月)	上層	23.3	5.8	5.1
	中層	23.2	6.9	4.7
	下層	23	7	4.8

(水温・塩分平均値は、島根大学 宍道湖・中海水質月報、1994年4月より引用)

(表の中の数字は、平均値を示す)

水質

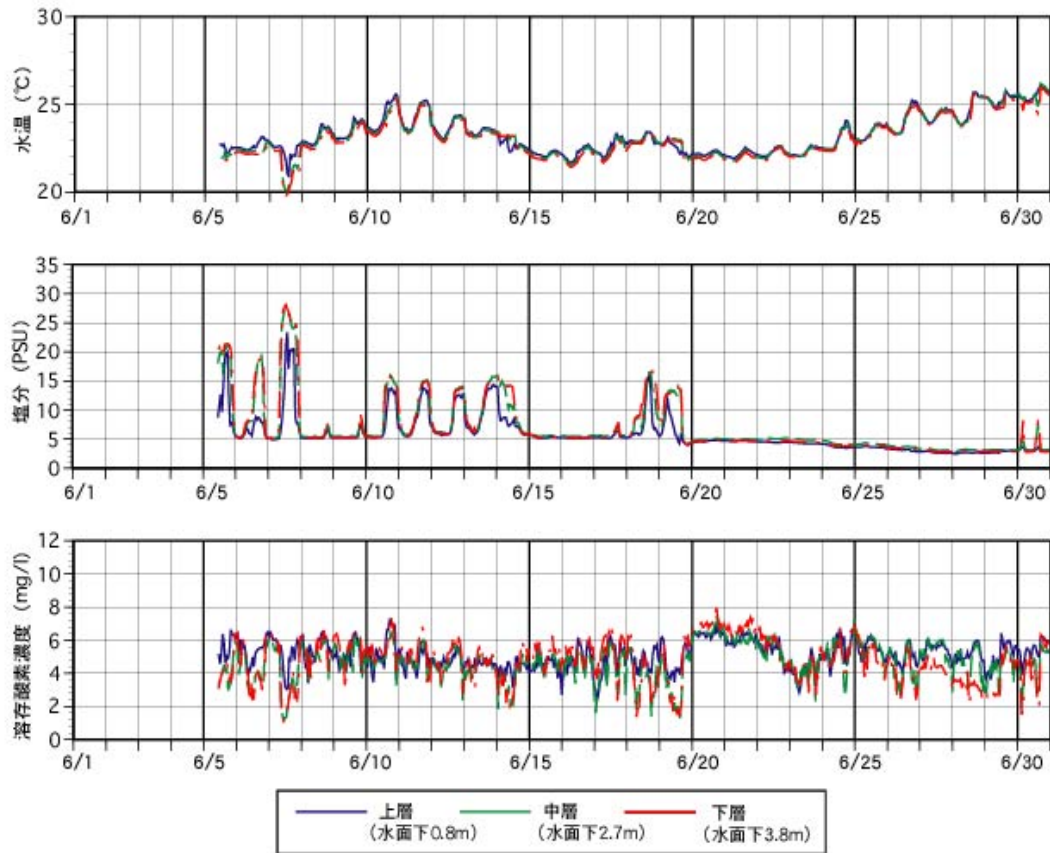


図1 水温・塩分・溶存炭素濃度の時系列変化

気象概況

図2に示すように、6月の顕著な気圧変動は、6月6日、14日、19日、30日において急激な低下が見られたが、全体として1000hPa以上の変動であった。平均気圧1005.5hPaは、平年値(平年値1008.7hPa)と比較して若干低かった。表2に示すとおり、6月の日射量は、0.1101MJ/m²であり、5月と比較して低い値を示していた(5月平均値:0.0844MJ/m²)。

6月の風向・風速は、平均風速3.7m/sec(平年値3.2m/sec,東風)であり、平年並であった。

なお、6月の気温については機器メンテナンスのため欠測しております。

表 2 6月期の気象概要

	気温 ()	気圧 (hPa)	風速 (m/sec)	風向	日射量 (MJ/m ²)
上旬	欠測	1006.8	3.5	南南西	0.1382
中旬	欠測	1004.5	3.3	東南	0.0902
下旬	欠測	1005.5	4.4	南西	0.106
月間平均 (6月)	欠測	1005.5	3.7	南	0.1101

(平年値は、平成 13 年気象の暦 (山陰版) (財) 日本気象協会中国センターより引用)

(表中の数字は、平均値を示す)

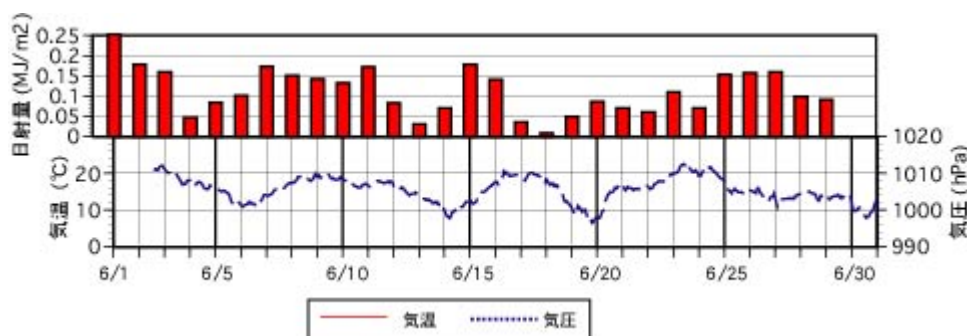


図 2 気温・気圧・日射量の時系列変化

流況

6月の平均流速は、上層 21.6cm/sec、中層 25.8cm/sec、下層 24.8cm/secであった。6月の東方流速は、中旬までは潮汐による往復流見られるが、下旬では、宍道湖から中海に向かう流れが卓越していた。下旬においては、塩水遡上が見られず、気象の影響(雨量)があったものと推察される。

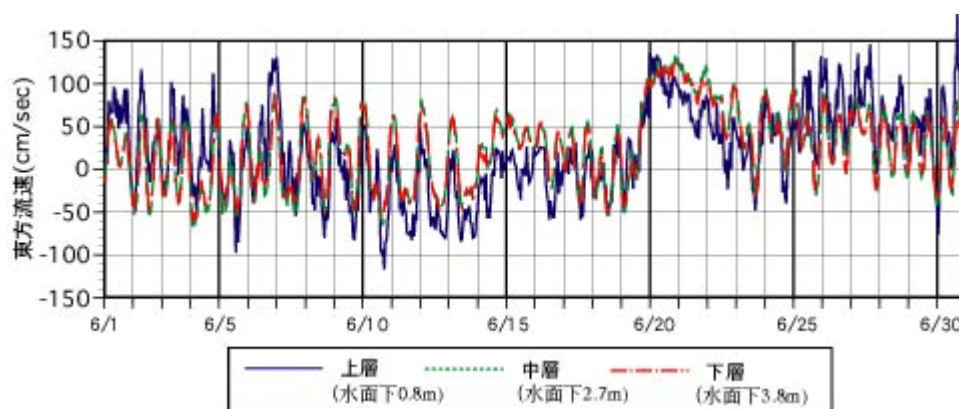


図 3 東方流速の時系列変化